

議 事 概 要

目 的	第1回尾鷲市総合計画審議会 部会協議
-----	--------------------

日 時	平成28年6月3日(金) 20:10~21:00
-----	--------------------------

場 所	本庁3階 第二・三委員会室
-----	---------------

部 会 名	第6部会
-------	------

内 容	
-----	--

○出席者

委員：奥村 玲子、加子 勝巳、津村 淳、濱野 薫久、松井 純

市：総務課 下村課長、財政課 宇利課長、税務課 吉沢課長 市長公室 中川係長

○主な協議等内容

- ・部会長 松井 純 氏
- ・次回開催日 平成28年7月4日(火) 18時～
- ・質疑応答 以下のとおり

委員

満足度が低く、アンケート調査の結果が変わってないところから見ると市民から見てあまり評価がつけられない分野なのではないかと推測される。行政の分野なので市民アンケートからは判断しにくいと思われるので、基礎的な資料から客観的に見つめ直して、考える必要があるのではないかと。質問ですが、この場でどのような発言をすればいいのか、例を聞かせていただきたい。

中川係長

主な事業の見直し予定を中心に、事業評価一覧表を見ていただいて、例えば611の「市は計画的で効率的な行政運用を行います」では、見直しが必要とされているところが1事業あげられているが、本当に見直しが必要なのか、また「秘書・事務経費」だけCということで、期待したほどの効果はなかったという見方をしているが、市の職員の評価が正しいのか、その辺りを見ていただきたい。

委員

611の事業に「5 秘書・事務経費」とあるが、何かが分からない。どちらかというとな総務的な、内向きの事業で、市民との接点が薄いので分かりにくい。

下村課長

どうしても市役所の中に対してのものであり、例えば、広域連携というのもどういう連携を図っているのかというのは分かりにくい部分だと思う。市の職員の数を減らす云々であればまだ分かりやすいが、先ほどの秘書業務の評価も、職員の判断であり、悲観的なところもあるのではないと思う。

委員

BやCの評価について本当にそうか、まずチェックする。96ページの614の税収の話は、きちんと

税を徴収されたという話が、市民評価に全然反映されていない。客観的には良い評価をされていても、なかなか市民のアンケートには反映されていないので、アンケートだけを見ても分からないところだと思う。

委員

公平な税の負担といえば、収納率が高ければ、きちんと徴税しているという部分では公平な負担という形になると思うが、市民目線でいえば税金が高いと言われても致し方ない。

委員

気をつけてこのアンケート評価などを見ていただく必要があるのではないかと思います。

中川係長

見直しの部分を見てもらった上で、「前期の振り返り」と「後期に向けた提案」ということで、この後期に向けた提案が皆様の感覚と合致しているかどうかを考えていただければと思う。

委員

この後期に向けた提案に加筆、訂正があるかどうか、最終目的であろう。

中川係長

そのため、先ほどのアンケート、事業評価をチェックし、CやDとなっているところを重点的に見ていただいた上で、「前期の振り返り」と「後期に向けた提案」について意見をお聞きしたい。

委員

90 ページの「施策の達成状況」が 36%というのや、94 ページの「行財政改革プランの進捗状況」が 76%というの、何をもってそうなるのかというのが分からない。収納率が上がっているのは分かるのだが、進捗率というのとは分からない。

下村課長

昨年度にこれに関与したのだが、一番訂正を求めたのは指標である。指標の作り方が一般市民には難しい。実際に何件増やすとか、何人増えるとか、単位を%ではないものにするともまだ分かりやすいと思う。

委員

他のところは結構具体的に市民目線で分かりやすいのだが。

委員

96 ページの税の関係だが、2 収納率向上対策事業だが、収納率向上しているが、外注で増えてきたということで、費用も増えていくはないのか。それを成功と言っていいのか。

委員

なるほど、だから市民アンケートに反映されていない。

下村課長

90 ページの「施策の達成状況」の 28 年度に設定した目標値 50 というの、アンケート調査の中の満

足度を示すものであり、26年度については36%という数字が出ている。めざすのは28年度に50%満足度を達成することである。

委員

先ほど疑問が出たが、収税をする時に、外注経費をたくさん使って実施したことはあるのか。

吉沢課長

元々は職員が徴収にあたっていたが、県と県内22市町で管理機構という一部事務組合を作った。市町の職員では技術が低いので、専門的な知識を要する土地差し押さえや公売を委託することによってかなり収納率が上がってきた。費用面は、負担金の形で職員を派遣し、さらに成功割合によって一部事務組合を運営するために費用を負担しなければならない。

委員

そういう力も借りてやっているということだよいのだと思う。

吉沢課長

人も2年交替で派遣し、スキルを身につけて担当部署へ戻り、そこで得た知識を活用して、税務課でも管理機構までは行かないが、差し押さえなども展開している。かなり費用負担はかかるが、人材は育成されている実感である。

委員

これからそういうものを出来るだけスキルアップして、自前でやっていけば安くできる、という方向に向けていくということが必要である。

委員

それと市民感覚を上げるということが必要である。

下村課長

そういうことを「後期に向けた提案」としていただけると良い。

委員

連携する団体というのは、まだ分母があるのか。連携しようとする団体があるが、もういっぱいいっぱいなのがよく分からない。声をかけているが、あまり上手くいかないのか。

下村課長

尾鷲市と紀北町あたりは、人口、学校規模で言えば、極端な話だが、例えば教育委員会を一部事務組合化すれば、教育長が一人で済むということも考えられなくもない。それに伴うメリットデメリットも考えなければならない。一部事務組合を作って、職員数とか委員数も減るという考え方もあるかもしれないし、各々の教育方針も違うのであれば難しいという部分もあると思う。公平委員会も紀北町と尾鷲市で1つにまとめてやればいいのかということもあるが、事務局を全部尾鷲市に振られる可能性もあるという心配もあるので進んでいない。

委員

効率化が図れるのであれば、ということである。

下村課長

紀北町と尾鷲市とよく似たことをやっているのであれば究極が合併である。

委員

96 ページの収納率は、すごく目標より上がっている。上方修正ということは、例えば年度途中であり得ることか。

委員

それは後期に向けた提案で言えばいいと思う。

委員

達成率を上げるほうが良いのではないかと、というのは言えると思う。

吉沢課長

実をいうと尾鷲市の収納率は県内でもかなり高い位置まで来ており、現場としてはこれ以上上げると結構ハードルが高いのではないかと考えている。ただ、前向きに目標設定するという考えもある。

委員

現状が 87.6%の時に、5年後に 88%という目標を立てている。0.4%の増加の見込みが少なすぎたと思う。

吉沢課長

見込みの数字よりも頑張ったととらえていただければありがたい。

委員

そういう場合は並行でもいい。例えば、28 年度に 93.7%と掲げて、高水準で推移させるというのを後期の目標にすればよい。

委員

大口滞納者を 1 つ落とせば収納率が上がる。

吉沢課長

大口はかなり機構で整理されている。機構の役割は、取れるところとか財産のあるところとかと、もう一つは、行方不明や所在不明の時に税法上の不納欠損処理の手続きをする。そういう調査もかなり高度な知識が必要で委託しているが、不納欠損の適正な処理をして、公平性の観点から仕方がないという整理により、分母を減らすという形もあり、かなり大口としては減っているのが実際の状態である。

委員

ふるさと納税はこれに入っているのか。

吉沢課長

ふるさと納税は、ふるさと納税をしたら住民税とか所得税の控除を受けられるということで、ふるさ

と納税は尾鷲市の歳入の寄付金に入る。